

# 令和5年度 第1回瑞浪市教育委員会点検評価委員会（要点筆記）

日時：令和5年5月24日（水）13：30～16：00

場所：市役所4階 全員協議会室

## 出席者

委員 浅沼克郎、正村京司、山口樹里亜、水野昌代、北原譲介

教育長

事務局 事務局長、事務局次長、教育総務課長、総務係（2名）

説明者 学校教育課長補佐、教育支援係長、教育推進係長、学校給食センター所長補佐、  
社会教育課長、社会教育係長、生涯学習推進係長

司会：教育総務課長

## ◇ 教育長あいさつ

皆様こんにちは。

点検評価委員をお引受けいただきまして誠にありがとうございます。

本日、大変お忙しい中、この委員会にご出席いただきまして、ありがとうございます。

5月8日に、コロナが、5類に移行したということで、学校教育では、ほぼ、コロナがなかった頃に戻そうと進んでいるところです。ただ1点違うのは、約8割の子どもたちが、マスクをしたまま、授業を受けたり、活動したりしています。これからだんだん暑くなっていくにつれ、マスクをして活動することは、熱中症につながっていく大変恐ろしいことでもありますので、個人の判断ではございませんが、徐々にマスクがとれるといいと個人的には思っています。

今年度のこの点検評価委員会は、令和4年度に、教育委員会が執行させていただきました。教育行政について、評価をいただくということになります。

第6次瑞浪市総合計画が10年間の計画でありまして、今年度がちょうど10年目になります。それにあわせまして、みずなみ教育プランも策定して、これも今年度が最後の年の教育行政を進めています。

様々な事業について、評価をいただくということになるわけですが、ちょうど今この次のみずなみ教育プランと瑞浪市総合計画を策定している最中でして、その策定の中に、これから点検評価いただくご意見を取り入れさせていただいて、子どもたちにとって、あるいは瑞浪市の教育にとって、よりよい方向になっていくようにしていきたいと思っていますので、様々な視点から、色々なご意見がいただけると大変ありがたいと思います。遠慮なく、ご意見をいただければと思います。

先週、全国から都市教育長が集まり、全国教育長会が2日間にわたり開かれま

した。色々な発表がなされる中で、共通して言われていることは、やはり少子化と高齢化です。少子高齢化がどの都市においても、非常に大きな課題になっているということが分かり、どの人も口をそろえて言われるということでした。

子どもはどんどん当然減っていきます。国としても少子化対策をするわけですが、子どもはどんどん子どもが減っていく、当然、どんどん高齢化になっていきますが、そのような中でも、本当に子どもたちが夢を持って、あるいは瑞浪市が夢を目指して、歩んでいけるような教育行政をしていくことが1番大事ではないかと思っています。

たくさんの教育行政の事業を評価していただくことになるわけですが、様々なご意見をいただいて、来年度に向けて策定していきたいと思いますので、遠慮なくおっしゃっていただければ大変ありがたいと思っています。どうぞよろしくお願い致します。

## 1 委嘱状交付

任期：令和5年4月28日から当該年度の点検評価に関する審議が終了した日まで  
委員全員に委嘱状交付。

## 2 自己紹介 委員名簿

## 3 委員長、委員長職務代理者の選出

委員長：水野 昌代氏 委員長職務代理者：北原 譲介氏

## 4 制度の概要説明 事務局

## 5 議 事

令和5年度（4年度事業）みずなみ教育プラン後期計画の施策の評価について

【基本目標1】 教育総務課長、学校教育課長補佐、教育推進係長、社会教育係長、学校給食センター  
一所長補佐説明

施策1	幼保一体化による就学前教育の充実
委員	保護者とICTを使って連絡を取り合う中で、通じているかどうかの反応の確認はできていますか。
係長	保護者の方がご覧になったかどうかを反映されるようになるシステムがあります。
委員	園での子どもの様子を伝えたり、それに反応したりする機能はありますか。

係長	連絡帳機能がありますので、活用されているかと思いますが、一度確認をします。
委員	園の家庭教育学級の、4年度のテーマは何ですか。
係長	確認します。
委員	昔から保育士、幼稚園教諭の不足ということを言われていましたが、今どのような状態ですか。 また研修をすればするほど、負担が大きくなるのではないかという疑問がありますが、どのようにお考えですか。
係長	人的配置、不足については、市長部局が担当ですので、研修についてお話をさせていただきます。 昨年度も今年度も幼稚園の先生方が、その次の日から直接指導に生かせるようにと考え、自然の中での遊びの指導の仕方や、粘土を使った遊びをどのように指導していくかという講座を計画しているところです。先生方の負担が、できるだけ少ないように、かつ先生方が次の日からの実践できる講座ということを考えて、講座を設定させていただいています。
委員	昨年度の取組の成果を感じているのは、昨年度の幼稚園の年長組の子が1年生に上がっていて、どの学校の1年生も生き生きとしていて、子どもたちは、充実した幼稚園生活をしてきていると思いました。 小学校で、1年生の担任をして授業をやっていますが、子どもたちが色々意欲的に積極的に活動したり、思ったことが言えるので、楽しい授業がつくっていけそうで、幼稚園教育の成果は大いにあるなと思いつつながら、みさせてもらっています。
評価	委員会評価 A
施策2	確かな学力の育成
委員	英語について、今は、昔と自己紹介の仕方が違うので、新しいほうをしっかりと指導して欲しい。
補佐	A L Tを4名配置しており、小学校は担任と一緒に、中学校は英語科教師とともに授業に入って、子どもたちと会話をする機会を増やしています。また、A L Tを派遣している会社とも、連携し、指導の方法を改善していく研修も職員向けにしており、充実を図って取り組んでいるところです。
委員	実際に民間の中にこういう方がみえるかどうか分かりませんが、コミュニティ・スクールで、もっと地元の方を発掘すれば、先生達の負担も減るのではないかなと思います。

委員	<p>国語教育にかなり力を入れて、特に読書指導や読書量を増やしてみえますが、岐阜県の学力テストで昔から小学校で、特に国語のレベルがなかなか上がってこないということを知ったことがあるのですが、これだけ頑張っているのに、国語力がついてこないというのは、読書と全くかけ離れた、イコールみたいな感じでは語れないということでしょうか。</p> <p>色々な教師の指導ということで手厚く配置されていますが、ALTもそうですが、瑞浪市において中学校卒業までに英検3級をどのぐらいの割合で、取れていますか。</p> <p>④のキャリア・パスポートは、どのような形式のものですか。</p>
補佐	<p>国語の指導と図書の読書指導の関連についてですが、県の教育委員会からも色々な指導資料などが提示されまして、各学校のほうにも紹介されており、各校の実情と子どもたちの様子に合わせてながら、活用しながら、子どもたちに国語の力が定着するようにと、各部門で努力をしているところです。</p> <p>中学生になって、力が伸びてきているところを見ると、小学校の指導が、中学校で実ってきているという考え方もできます。引き続き、各種調査の分析をきちっとしながら、子どもたちに、より力がつくような指導を進めて参りたいと思います。</p> <p>英語検定につきましては確認します。</p> <p>キャリアパスポートにつきましても、県の教育委員会からの見本がありまして、そちらのほうも活用しながら、学校の実情に合わせて、ずっと積み上げてきている様式等もある学校もありますので、学校ごとに教育活動を照らしながら、より有効なものを選んでつくっています。実際のもものは子どもたちが教室に持っておりまして、教育委員会にはありません。</p>
委員	<p>どこまで持ち上がっていくのですか。</p>
補佐	<p>高校までです。</p>
委員	<p>6 ページの今後の取組の③、④に関わって、今後コミュニティ・スクールの、取組や実践が盛んになってくると思います。</p> <p>もちろんその中で、ふるさと教育とかキャリア教育が、多く実践されていくわけですが、令和4年度の実践の中で既に、小学校の中で、ふるさと教育やキャリア教育が、図書館経営の中に位置づいて、経営されている学校があつて、見た目が新鮮ですし、子どもたちがよく行く図書館に、自分たちが学んだふるさと教育やキャリア教育が位置づいている、図書館の本とつながっているということが、とても意義があ</p>

	<p>ると思って見えています。</p> <p>図書支援員さんを2名つけていくということももちろん重要なことで大切ですが、経営や、図書主任さんとの連携の中に、やはり今後コミュニティ・スクールで出てくる、ふるさと教育とかキャリア教育を子どもの1番目に見えるところに、1年生でも2年生でも目に見えるところに位置づいていくような経営が、どの学校にも出てくると、ますます子どもたちの学力や、興味関心、学ぶ力が高まっていくのではないかなと思っています。</p>
委員	<p>5ページの⑥にある、家庭教育についての研修機会の充実というところで、今私はPTA連合会の子育て委員を務めています。PTA連合会向けの講演会や研修会が多く、私もなるべく参加させてもらっています。私のような立場の研修会が多く、学んだことをそのまま他の保護者に流す機会があまりなく、ここ止まりになっていることが現実です、これは割とどこの小学校でもそういうのが問題になっています。コロナの関係でここ数年は、学校主体の講演会も、中止になってきていますが、コロナも落ちついたということもあるので、保護者向けの講演会がもっと増えていくといいなと思います。私たちばかりではなく、保護者も聞きたい話もたくさんあると思いますので、これを機会に、コミュニティ・スクールもあるので、地域の方のお話などでもいいので、何か保護者向けの話を聞ける機会がもっと増えたらいいなと思います。</p>
委員	<p>今の話に続いてですが、⑥のところに、交流会、研修会の実施が各学校1回以上実施しているということですが、どれぐらいの保護者の方が、参加されていますか。</p>
補佐	<p>今情報が手持ちにないので、またご報告します。</p>
委員	<p>ずっと英語のお話をされましたが、やはりALTの方が、学校を回られるということで、1番は、そのALTの方を活用できるというのは、英語が楽しいよって子どもたちに伝えられるということだと思います。ALTさんをぜひもっと活用していただきたいと思います。</p>
委員	<p>この評価のところで少し気になりました。</p> <p>実際何を基準として評価すればいいのか難しいと思いますが、ただ何回その取組をやったから100%できたとか、何回行ったから目標が達したということで、評価が全部丸ついているのですが、その上で、どのような効果があったかという評価をしないと、何回したということだけで全部これできましたということでは、少し評価の意味が違うのではないかなと思いました。</p>

委員	<p>今の考えでいうと、実際やっているの、ほとんど今の基準では A になってしまふけど、それでいいのということですよね。</p> <p>例えば全国平均よりも、下回るのが悪いかどうかは別次元ですが、全国平均までいってほしいという期待値を込めると、A ではなくなると思いますが、全体的に見ていくと、委員長がおっしゃったように A になってしまふと思います。</p>
委員	<p>この評価だけを見て、私たちが判断していくと、全部 A になってしまふので、少し掘り下げて、評価をつけていただきたいと思います。</p>
委員	<p>言われるとおりに、教育したことが子どもの姿にどう反映されているのかが大事です。教育委員会として、学校としてやっているの、そのことは A で、その後の成果としては、今後に期待するということになるのかなと思います。</p> <p>だから、私は A でいいのではないかと思います。</p>
委員	<p>瑞浪市は、他市との比較はなかなかできませんが、多種多様に実践されていて、達成に近い数字が出ているので、A でいいのではないかと思います。</p> <p>確かに課題としては、それでどれぐらい子どもたちにといったところを見ていくと、また違ってくると思いますが、今年度の評価は、A でいいと思います。</p>
評価	委員会評価 A
施策 3	特別支援教育の充実
委員	<p>①に関して、多様な特性を持った子に対して、そこにいる児童生徒や保護者の理解をしっかりとしていかないと、効果が上がりにくいのではないかと思います。どのようにやってみえて、現状はどうですか。成果の②で、目標に対して、支援員の支援に対する有効度は、なぜ 90% なのですか。</p>
補佐	<p>学校でアンケートがありまして、そちらで学業支援員さんを有効に活用することができたかという質問に対する答えになりますので、内容について細かいことは、把握しかねます。</p> <p>学業支援員さんは教員免許がある方とない方が、一緒に学業支援員さんとして当たっていただいて、研修することによって、教員ではない方もできるだけ、特別支援や外国籍のお子様に対する対応ができるようにしています。学校として、学業支援員さんを、特別に支援が必要な子に対して活用できたかという質問には、活用できなかった人はいないと捉えています。</p>

委員	児童生徒の保護者への理解のさせ方で何か苦心されていることはありますか。
補佐	特別支援学級に在籍しているお子さんですと、担任と保護者さんと、特別支援学級のお子さん、会合を持つことが多いですが、普通学級にみえる少し支援が必要な子になりますと、しっかりとその方にくつつくわけではなく、クラスに支援員さんに入っていて、何人ものちょっと支援が必要な子のお手伝いをしていくので、保護者に、あなたのお子さんに学業支援員がついて見えていますと伝えているかどうかは、その頻度と担任の先生によるところが大きいです。
委員	肢体不自由や知的に障がいがある子を排除していることはないですね。
補佐	学校において、特別な支援を必要とするお子さんについて、子どもが大きくなれば本人と、小さいうちは保護者の方も交えながら、どういう活動において、通常学級の子とどのように交流するのか、この活動については、個別に支援をしたほうが望ましいのではないかとこのことを、連携をとりながら進めています。 そして受け入れる場、通常学級においても、多様性を学んでいく上で、とても大事な活動になってきますので、学級担任はもちろん、学校体制で、ともに生きていくということの価値をきちっとお話をしながら子どもたちに学ばせる努力が日々、学校で進められています。
委員	支援員が38名と大勢配置してもらっていて、本当にありがたいなと思っています。その中で、各学校の希望と、今後の取組に書いてある、現状に合った支援体制ということで、少しずれがないかなと思っています。各学校からは希望がどんどん出てくるとは思いますが、不足している学校もあるかと思うので、より効果的に活用してほしいと思います。
補佐	この希望というのは、学校が一方向的に希望してきたわけではなく、学校の希望があり、そこに特別支援担当の教員が、学校へ行って、相談をして、全部すり合わせた上で、出してきた希望になります。学校が一方向的にたくさん欲しいと言ってきた希望の数ではありません。
委員	幼稚園の先生から聞いた話です。やはり本質的に先生たちがもう少し欲しいと望んでみえる気がします。
補佐	小学校では特別支援学級が組まれるので、県から教員が配置されますので、教室が一つ増えます。 そこに入らなかつたら、幼稚園ですごく困っている方は、小学校に上がると特別支援学級とか、もう少し少人数の先生が1人に子どもさん

	3人といった教室をつくることもできるので、そこは幼稚園から小学校に上がる時に、判定委員会にかけるということがあります。
評価	委員会評価 A
施策4	豊かな心の育成
委員	非常に忙しい毎日の中で、一人一人の子どもたちに目を向けてくださって、特にhyper-QUを有効に活用していただければと思います。 道徳教育で、道徳の実践力が大切だと思っています。
委員	道徳教育に関わって、8ページのこれまでの課題と4年度の実践の①、今後の実践①に具体的に生き方について考える道徳授業づくりをということではありますが、道徳の授業について公開したり勉強したりしたことがない先生が多くいる実態があるのではないかと思います。 例えば、評価目標の仕方として、年1回は道徳の授業を誰もが公開して、できたとする方法もあるのではないかと思います。
委員	学校の先生ではないので専門的なことは分かりませんが、本当に昔からいじめというのがものすごく大きな課題だと思います。 多分、どの学校でも大なり小なり、あると思っています。 本当に根本的になくすためにどうしたらいいかと、これからも、考えていただきたいと思っています。 そうした中で、②で目標を既に100%にしてみえるというのは、とても評価したいです。 やはりいじめに対して、ものすごく考えてみえると思っています。 尊い命がなくなる事例が全国的に発生しているので、瑞浪ではそのようなことがないように、期待させていただきたいと思っています。
委員	長期欠席者の人数が増加しているということですが、昨年度の長期欠席者数は小学校、中学校それぞれどうですか。
補佐	令和3年度におきまして、不登校の状況では、小学生が29人、中学生が31人、令和4年度は、小学生が25人と減っていますが、中学生は38人と増えています。 過去に遡りまして、小学生は令和元年は11人、令和2年も11人でしたが、令和3年度で29人に激増し、令和4年度で25人に減っていますが、令和2年度から比べれば、倍以上になっています。
委員	長期欠席者の人数が、全体的に増えてきていることに対して、何か対策は考えていますか。
補佐	市としては、教育支援センターが不登校に対しての業務を行うところ



	なので、そちらの人員を増員したりして強化しております。
委員	不登校児童生徒の学校復帰への支援ですが、学校に戻ってきてくれる子もやはり何人かみえますか。 不登校になった子が1年間で、こぶし教室を利用しながらまた学校に来れるということはないですか。具体的な数は分かりませんか。
補佐	ぱっと来れるようになることはないので、何日か来たり、また休んだりを繰り返しながら、学年が変わったことで戻れる子もいますし、途中から不登校になっていく子もいるので、なかなか風邪のように治りましたというわけにはいかないですが、担任の先生が、手厚く対応したり、教育支援センターの先生の指導で対応術を学んだりしています。人数が増えたり、担任業務をしながら、手厚い指導を行うと、先生たちの過重労働が起きてしまうので、そこを下支えするためにも、教育支援センターの活用や教育相談員さんを活用しながら、徐々に体制はとられていっております。
委員	不登校の原因はいじめが多いですか。
次長	理由は、問題行動調査等の結果で、不登校の原因などが、数値化されたと思いますのでまた次回報告できればと思います。
評価	委員会評価 A
施策5	健やかな体づくりと食育の推進
委員	スポーツテストの成績が、小学校は低くて、中学校に上がると倍近くに上がっている。これは土岐、多治見でも同じ傾向ですか。
補佐	他市の状況は把握しておりません。 考えられる要因としては、小学生については、本来10分休み昼休みを外に出て、思いっきり体を動かして体力をつけるのですが、コロナ禍でマスク着用のため思いっきり体を動かせなかったり、暑さの関係で運動内容に制限ができてしまったり、どうしても日々の運動量が減ってしまいます。 小学校の高学年から中学生ぐらいになると、学校の活動とは別に、地域スポーツクラブ等で、各自で運動をしますが、小学校はどちらかという日々の活動の中での運動がメインになるので、確かなデータがあるわけではないですが、そのようなことが考えられます。
委員	遊びを通してというのは大切なことだと思いますが、何かサーキットトレーニングや、体力づくりとして時間をとるとかなどはしていますか。
補佐	確認しておきます。

委員	2類から5類に引下げられたので、思いっきり外で遊んで、体力をつけていただければと思います。
委員	給食は美味しいですか。子どもたちは喜んで食べていますか。
補佐	毎日学校との連絡帳があるので、これが美味しかったとか、ごはんに合ったとかの感想をいただきます。
委員	1食いくらですか。
補佐	小学校280円で、中学校が320円です。
委員	10年前も同じ金額ですが、値上げをしていないのですね。
補佐	値上がりはしていませんが、その分市からコロナ対策で1食25円ずつ補助が出ています。
委員	インスタグラムを見ているお母さん方が多いと思うので、もっと活用してもらってもいいと思います。インスタグラムのQRコードは、学校給食だよりに載せていますか。
補佐	毎月出している食育だよりに、QRコードがついています。
評価	委員会評価 B
施策6	幼稚園と小学校、小学校と中学校の連携の強化
委員	各学校のホームページで、学校だよりは掲載されていますか。
補佐	はい。
委員	家庭には、アナログで配られていますか。
補佐	小中学校は紙ベースで、幼稚園はほぼデータで配信されています。
委員	今後の取組の中で、①で充実を図るため、園長会、主任会等で園へ訪問して指導助言を行うとありますが、学校への指導助言をされているという解釈でしょうか。
補佐	学校のほうにも、幼稚園との連携を図ってという姿勢です。
委員	4年度の実践の質問で、教職員の交流、合同研修会とかで、交流の仕方、例えば、小学校1年生を担当した教員が実際に幼稚園でどうやっているかを見に行くとか、中学校の先生が小学校の5、6年生の指導の仕方を見に行くとか、現場を見る研修はありますか。
補佐	実際私自身も、中学校に勤めているときに小学校に参加したり、そういうことをしておりましたが、コロナで人の行き来を最小限に抑えなければならないという3年間が経きましたので、そのことに関しては、情報も数字としては出せない段階ではあります。 可能な方法でということ、子どもたちの情報交換や、指導方法の交換を昨年度の段階ではやりました。
委員	学校のたよりのところが△になっていますが。

補佐	自治会回覧というこの言葉を厳密にとりますと、幼稚園はデータ配信なので、回覧板に挟まれないので、△にせざるを得なかったという状況です。 広く、皆さんに目に触れるという努力はしています。
委員	園は、どこに配信するのですか。父兄だけですか。
補佐	父兄には配信しています。 ホームページ等については確認します。
委員	一般の方がそれを見て、問題になることはないですか。
補佐	一般の方が見てもらうことはないは問題ないと思います。
委員	園だよりの自治会回覧はやっていくということですか。
補佐	目標としているので、やっていくということです。
評価	委員会評価 B
施策7	幼稚園・学校の職員の資質向上
委員	時間外平均の中で、職員割合 20%が出ていますが、前年に比べていかがでしょうか。
補佐	数字を持っていないので、後日お答えします。
委員	様々な研修をやって、先生の力がどんどんついてきていると思いますが、感触としてはどうですか。
次長	このコロナ禍で特に感じるのは、話合いができないので、子どもたちの意見を闘わせる技量というのは、どうしても伸びてないと思います。逆にICTの技能が本当色々使って行って高まっている部分もあると思います。
委員	主な取組の④ので、各学校で、市の指定校受けたり、校内研究を自主的にやっていますが、対象教科の実態は、中学校は各教科で研究していると思いますが、小学校は算数が多いですか。
委員	今年度の日吉小学校は算数を研究テーマ、昨年度の瑞浪小は教職員の多い学校ですので、色々な科目ができます。小さい学校になりますと、全校で、一丸となって一つの教科を研究していく取組をされることが多いので、日吉小学校は算数です。
委員	市の指定には縛りはなくて、各学校の実情に応じて、どの教科でも良いということですね。今後、理科や社会など色々な教科を指定していくことで教職員の力がついていくと思います。
委員	時間外勤務の平均で△がついていますが、詳しく説明していただけますか。
次長	なかなか目標の月 45 時間がクリアできない職員がいるというのが実

	<p>情です。</p> <p>特にこの4月はどうしても、なかなか忙しくてクリアできないのですが、手際よくやれなかったり、同じことをやっても、どうしても、こだわってしまう先生がみえるので、その辺りの違いもあり、△です。</p>
委員	<p>雑務などの、事務的な処理で超えてしまいますか。</p>
次長	<p>そうですね。</p> <p>実際に学校の校務支援システムというのが導入されつつあり、中学校ですと、調査書や、出欠がすぐできるというサポートがされてきていますので、雑務的なものがこれからあと何年かかけてすっきりすると思います。そこから自分の仕事と向き合ったときに、削れるかどうか判断ができるかなとは思っております。</p>
評価	<p>委員会評価 A</p>
施策8	<p>学校環境等整備・充実</p>
委員	<p>ICT教育の推進で1人1台タブレットが導入されて何年が経ちますか。</p>
補佐	<p>4年目です。</p>
委員	<p>タブレットを使う能力はどうですか。</p> <p>例えば、写真を撮って取り込んで、文書の中に入れるといったことはできますか。</p>
補佐	<p>学年の発達段階によります。中学生は授業の中でそのような活動を行います。</p>
委員	<p>教材は先生がつくるのですか。</p>
補佐	<p>自作のものもソフトもあり、より有効なものを使っています。</p> <p>全部、自作ということはありません。</p> <p>現場の教職員もいかに負担が少なく、効果的なことができるか考えながら研究しています。</p>
委員	<p>小学生は、教科書プラスタブレットを持ち帰るには重く、長期休み前にしか持ち帰れないため、タブレットをもっと薄くて軽いものに変えていくことは可能ですか。</p>
補佐	<p>買い替えの時期に、都度検討していくことにはなりますが、瑞浪市が採用しているのはChromebookです。</p> <p>近隣の都市でChromebookを使っているところは本当に少ないですが、実は全国のシェアでいくと圧倒的にChromebookを使っています。</p> <p>子どもたちの将来を考えると、大人になって移行したときに負担が少ないものを今から使わせたほうが良いのではないかという考えと、今</p>

	<p>まで使い慣れていないタブレットを使うときに安心して使えるように、多少の衝撃には強いという理由から、瑞浪市はChromebookを採用しています。</p> <p>それから、教科書を減らしていったり、そのような方向で、また検討していくと思います。</p>
委員	家庭内におけるWi-Fiの普及率はどうでしょうか。
補佐	タブレットを取り入れる前段階として、各家庭のWi-Fi環境は、調査をして大丈夫でした。
評価	委員会評価 A

【基本目標2】生涯学習推進係長、社会教育係長説明

施策1	多様な世代に対応した生涯学習の内容の充実
委員	<p>広報に特集本の記事が掲載されており、このような宣伝をどんどんしていくと良いと思います。</p> <p>成果①で、公民館講座等のべ参加者数の目標が1万人とありますが、これは市外の人も含めて、1万人なのか、市民が1万人なのか、どちらですか。</p>
係長	<p>当初の設定の状況は分かりかねますが、やはり市内の参加の方が多いと思っております。</p> <p>例えば、コロナ前の平成30年はのべ参加者数というのが1万6700人ぐらいのときもありますので、コロナ禍という状況も踏まえての、1万人という目標を設定していると認識しております。</p>
評価	委員会評価 B
施策2	地域での子育てに係る学習環境の整備
委員	コロナの影響もあり少ないことは確かで、それを今後どう復活していくかが課題と思います。
評価	委員会評価 B
施策3	高齢者の活躍の場づくり
委員	高齢者がやりたいことと違うのではないかという印象を持ちました。ときわでやっているような内容を他市ではやっていて、女性が多く男性が珍しいので、内容を変えていく必要があると思います。
補佐	日吉、釜戸では名前を変えています。
委員	保幼小中との連携を図るといふ部分につながっていくかなと思いますが、学校教育課が進めている、コミュニティ・スクールの活動の一部

	が、社会教育課で進めている地域の高齢者と子どもの交流の促進と活動と重なっていると思いますが、学校教育課と社会教育課の連携構想はあったのでしょうか。
係長	<p>社会教育課は、地域学校協働活動の推進ということで、地域側の援助支援をしていくという形になっています。</p> <p>学校教育課はコミュニティ・スクールの促進ということで、学校側の学校運営協議会等の指導援助をしています。</p> <p>各学校の学校運営協議会や企画会等がある場合は、私と学校教育課の担当が一緒に出向かせていただいて、それぞれの視点と立場から、学校側に指導助言を入れて、市内統一の動きがとれるように狙いを図って動いているので、そこが地域側と学校側が一緒になって、課を連携させて取り組んでいるところになると思います。</p>
評価	委員会評価 B
施策 4	公民館・図書館等による人材発掘と育成
委員	指導者の育成の取組ですが、広報などで、広く募集すれば、自分から申出てみえる人が大勢みえますか。
係長	<p>大勢ではないですがあります。</p> <p>例えば中央公民館ですと昨年度は、ご自分でこういうことで協力出来ないかと言ってくださった方も2、3人ありまして、今年度の講座につながっている実績もありますし、昨年度文化祭で、ボランティアで、得意のマジックを披露してご協力いただいた方もありますので、多少効果はあるかと思っています。</p>
委員	ボランティアスキルアップ講座の開催数で、実施なしには、何か理由がありましたか。
係長	4年度は、読み聞かせボランティアの新規の参加者がいなかったため、実施しませんでした。
評価	委員会評価 A